

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990200172		
法人名	株式会社ケアフォレスト		
事業所名	グループホームひなたの広場		
所在地	栃木県足利市五十部町490-1		
自己評価作成日	平成28年1月10日	評価結果市町村受理日	平成28年3月28日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切に、利用者一人一人が楽しくその人らしい生活を送れるような介護を心がけるとい理念を掲げ、職員一人一人が理解し、共有するよう努めている。また、実際に介護に生かすよう心掛けている。地域の一員として、地域の行事に積極的に参加している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php</a>
----------	---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市街地に近く、隣に郵便局や公民館などのある静かで便の良い環境に位置し、隣接の小規模多機能型居宅介護事業所と運営推進会議や災害避難訓練などで連携している。管理者と職員は「家庭的な雰囲気を大切に、利用者一人ひとりが楽しくその人らしい生活を送れるような介護を心がける」という事業所の理念を共有しながら、円滑なチームワークのもとサービスを実践している。法人グループ内研修や事業所勉強会などで職員は身体拘束をしないケアに取り組み、成果も現れてきている。また、グループ内事業所からの情報や訪問診療医の紹介で、ターミナルケアにも取り組み、情報交換がサービスの向上に活かされている。地域においては、運営推進会議、地域の方や高校生によるボランティアの訪問、文化祭や子供みこしなどの行事等を通じて事業所ぐるみで地域の一員として交流を図っている。4月から11月の時期には、車を使い近隣の道の駅やフラワーパーク、弁天池などに出かけ、外食等をしていて、それが利用者の楽しみごとにもなっている。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成28年1月29日		

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気大切に利用者一人一人が楽しくその人らしい生活を送れるような介護を心がけるという理念を掲げ、事務所の見やすい所に掲示している。職員は理念を理解し、共有している。	管理者が開設時に作成した事業所独自の理念を、職員採用時及び毎月の職員会議の時など職員に話しており、職員全員が理解・共有し、サービスの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員としての施設を心がけている。地域の行事には積極的に参加をしている。利用者が、外出の時は近所の方と挨拶や会話を等交流をしている。	自治会に加入し神社や町内の清掃活動、公民館の文化祭への利用者作品出品、夏祭り参加などのほか、子供みこしの中継地にもなっている。地域の人や高校生ボランティア訪問も受け入れて交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人や家族から相談を受けた場合に助言をしている。また、地域の民生委員の施設見学会を行い、理解を深めてもらう取り組みをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、福祉委員、介護保険課職員、家族等に参加してもらい、事業報告や今後の予定、外部評価について等話し合っている。意見や情報等あれば施設運営に生かしている。	運営推進会議は2か月に1回地域の方や家族、市職員などの参加で開催している。事業報告、行事、外部評価、市からの情報や介護保険改正の説明、避難訓練など多岐にわたる議題について活発な意見があり、その結果をサービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して情報交換をしている。必要な時は随時話し合いをしている。	運営推進会議に市担当職員が出席しており、事業所の実情や取り組みを伝え、情報の提供を受けたり、情報交換を行っている。電話をしたり、出向いたり、相談したいことがあればいつでも相談できる関係である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成しており、それに則り身体拘束はしていない。玄関の施錠もしていない。	年2回法人グループ内の研修や、事業所での毎月の職員会議などを通じて接遇等の職員教育を行い、身体拘束をしないケアに全体で取り組んでいる。不穏な時がある利用者には散歩やドライブに誘ったり、1対1で話を聞くなど落ち着くまで支援している。日中は玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴介助、着脱介助の時など身体を確認し、異常があればすぐ気付き、把握できるよう努めている。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じ、NPO法人財産管理支援センターフォレストよりアドバイスを受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧な説明を心がけ、利用者や家族の理解を得るよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族と話す機会を積極的に作っている。その際、意見・要望を聴くよう心掛けている。また、意見箱の設置もしている。	毎月の利用料支払い時や面会来所時、運営推進会議など機会あるごとに家族から意見・要望を聞くようにしている。行事に関する事など積極的に意見を出してくれる家族が多く、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催しており、その場で意見を聴いている。また、その他の時でも、随時意見などあれば話し合い、検討して運営に反映している。	管理者・主任・職員間は壁がなくコミュニケーションが図られている。所内の会議、グループの主任会議、所長会議などを通じて意見・提案等が出し易い環境にある。利用者が角にぶつかってあざを作らないよう工夫するなどの意見があり、実際のサービスに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務実績などを考慮し業務評価表を基に給与や賞与に反映をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規職員は業務に慣れるまで、他の職員と組み業務にあたっている。また、その他でも、グループ内研修、外部研修等に参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内において、研修会や交流会を行っている。今のところ、外部との交流会などは行っていない。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の訪問調査の時、本人の意思や思いを必ず聴くようにしている。納得し、安心して施設利用に繋がるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の訪問調査の時、家族が困っている事、不安に思っている事等を聴くようにしている。その際、適切に助言できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者および家族にどのようなニーズがあるのかをきちんとアセスメントしその人のニーズに合った支援を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係の構築が重要と考えている。そのためには、介護する人、される人という関係ではなく、対等な人間関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況に応じ、家族と適時連絡を取り合っている。行事の時等に、参加を促し利用者との関わりを持てる機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と連絡は密にしている。お盆やお正月には自宅に帰ったり、家族と外出したりしている。	本人の希望や職員の提案などから馴染みの所に外出したり、地域の美容師が毎月来ている。家族や知人の訪問も応援し来所時にお茶を出したり、年賀状を家族に出すなど馴染みの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性や相性、残存機能を把握してお互い支え合うことができるように支援をしている。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も必要に応じて情報提供や相談など受け付けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションを重要だと考えている。その中で、思いや希望を把握することにより、実現できるよう努めている。	ゆとりのある時をみて利用者と話をしたり、家族からの情報、職員の意見から利用者一人ひとりの思いや意向を把握し、本人の希望に沿った過ごし方ができるよう支援に努めている。掃除や料理、歌の希望が多いが、希望の把握が困難な場合は、選択肢を用意する等工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の訪問調査の時、生活歴を本人や家族から聴き、把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員会議の時、利用者の状態を個別に話し合い、現状でのニーズはどこにあるのか把握している。それに基づいて本人本位の生活が送れるよう支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意見や意向を参考にしてケアプランを作成するよう心掛けている。また、職員会議で上がった意見も取り入れている。	担当職員を置き家族の意向を確認し、往診医などの意見を参考にして毎月の職員会議で話し合いを行い、介護計画を作成している。年1回のモニタリング、日々の日誌も活用し毎日本人の状況を観察しており、変化があれば見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、業務日誌、日常生活チェック表等に、日々の様子を記録している。また、それらを職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族のニーズに合わせ、臨機応変に対応している。本人本位を基本とし、柔軟に対応している。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公民館で毎年開催される文化祭に作品を出品している。また、地域の夏祭りに参加したり、子ども神輿に来てもらったりと地域との交流に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までの主治医との関係性を大切にしている。体調不良の時は主治医へ受診してもらう。受診は家族がいけない時は施設で連れて行くなど、適切な医療を受けられるよう支援している。	従来からのかかりつけ医の継続を基本としているが、かかりつけ医のない人には協力医を紹介し月1回の往診がある。かかりつけ医の受診時は、家族に経過記録など必要な情報のメモ等を渡し、医療機関と連携を取り適切な受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置していない。利用者の健康管理に関しては、かかりつけ医と緊密に連携するよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要になった場合はかかりつけ医と相談し決定している。その際、情報提供は医療機関にしている。退院時はソーシャルワーカー等と連携し、スムーズに退院できるよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に十分説明をしている。納得、理解してもらうよう努めている。	重度化や終末期の対応については本人・家族に入居時に説明し方針を話し合っている。現在訪問診療を行う医師や訪問看護師や作業療法士等の協力のもとにターミナルケアの支援をしている。職員も、医師の指導や訪問看護師の話、グループの勉強会参加などで支援に向けた取り組みを深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については職員会議や研修などで学んでいる。また、事務所に緊急時の対応手順を掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いのもと年2回避難訓練を実施している。	消防署立ち合いのもと隣接の小規模多機能型事業所と合同での訓練を1回、事業所単独で1回と、年2回の避難訓練を実施している。消防署からハザードマップをもらったり運営推進会議で地域の協力を依頼するなど災害対策を進めている。米、食料の備蓄もしている。	避難訓練に地域住民の参加を得て役割を担ってもらったり、連絡網に組み入れる等、地域との協力関係をさらに深められるような取り組みに期待したい。また、年間を通じて定期的に避難訓練を重ねるなどの取り組み、水の備蓄にも期待したい。

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者とコミュニケーションをする時は、言葉遣い、態度、表情などに注意し接するようになっている。また、馴れ合いの介護にならないよう心掛けている。	職員自身の顔の表情に注意したり、否定的な言葉、丁寧過ぎる言葉、赤ちゃん言葉などは用いず、利用者の尊厳を傷つけないように配慮している。法人グループの主任の会議時に、職員同士利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を学び、日々のケアに活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介助する時の声掛けは、「～しますか」等声掛けし、利用者に決定を促すような対応をしている。また、日常生活の場面でも利用者の希望を聴くよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設側の都合で介護をするのではなく、利用者一人一人に合わせた介護ができるように努めている。起床時間、就寝時間を利用者に合わせる等取り組みをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問散髪の時、髪形やカラーなど希望に合わせて散髪してもらっている。また、洋服を着る時はどの服を着るか選んでもらう等している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付け、メニュー、配膳等美味しく食事が提供できるよう色々工夫をしている。食事準備、後片付け等も手伝える利用者には手伝ってもらうなどしている。	利用者の希望を聞き栄養を考慮した職員の献立で、利用者はできる範囲で一緒に下ごしらえや盛り付け、片付けを行っている。敷地内で栽培した野菜や家族からの差し入れ野菜も使用している。時々外食でステーキや回転寿司などを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表があり、毎日記録をしている。それに基づき利用者の状態を把握できるようにしている。塩分や水分制限のある利用者には制限内での食事の提供など行っている。栄養不足の利用者には栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。就寝前には義歯洗浄剤で洗浄・消毒をしている。必要に応じて、歯科往診も来てもらっている。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に毎日記録をしている。それに基づき利用者の排泄パターンを把握し、トイレ介助に生かしている。	利用者の排泄チェックを毎日行い、一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげなく声かけをしてトイレに誘導している。できる限り日中はリハビリパンツやパッドを利用し、トイレでの排泄ができるように支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように、食物繊維の多い食事を提供する、運動をしてもらう等心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、利用者の状況に合わせて臨機応変に対応している。入浴を楽しむために、入浴剤を入れたり、季節に応じたお湯にするなどしている。	基本的には週2回午後、1日3名ずつ職員と1対1で入浴剤を入れてコミュニケーションをとりながら気持ちよく入浴できるよう支援している。希望があれば利用者の状況に合わせた対応もしている。ターミナルケアの方や立位が困難な方には複数職員で介助し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間は利用者の状態に合わせている。安眠できるよう温度調整や明かり調整などもしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに利用者が現在服薬している薬リストがあり、職員が把握できるようにしている。服薬介助の時、誤薬が無いように、薬をまとめたり、シールを貼り服薬時間が分かりやすいようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴を参考に、その人に合った余暇活動ができるよう努めている。タバコを吸う利用者は本人の希望に合わせてタバコを吸ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一回は外出行事を企画している。家族も参加できるよう連絡をしている。	天気の良い日は近隣を散歩したり、4月から11月の時期は、車を使って全員でフラワーパーク、足利公園、隣市の道の駅、弁天池、ショッピングモールなど遠出の外出を行っており、利用者の楽しみごとになっている。冬季には皆で初詣にも出かけた。	

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金があり、外出行事の時そこから使用している。自分で支払いができる利用者には自分で支払いをしてもらうなど対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が希望する場合対応している。また、年賀状を出すなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	クリスマス会、敬老会等季節の行事ごとに飾りつけをしている。共用空間は清潔を心がけている。適温、適湿を保つよう努めている。臭い対策の為、空気清浄器、消臭剤を設置している。	大きな窓のある日当たりの良い広いリビングは、空気清浄器や加湿器、エアコン、定期的換気で清潔に保たれている。ひな人形など季節に応じた飾り付けや利用者や職員の手作り作品などが飾られ、居心地の良い空間となっている。利用者は日向ぼっこやテレビ鑑賞など思い思いにくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者のペースに合わせ、好きな時に好きな場所で過ごせるよう支援をしている。ひなたぼっこの為、窓際に移動したり、仲の良い利用者同士を隣にしたりなど対応をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用前の事前説明の時、使い慣れた物や家具など持ち込みも大丈夫ですと説明している。自宅に居た時と同じような雰囲気を作れるよう努めている。	居室にはベッド、整理筆筒、エアコン、カーテンが装備され、毎日職員が掃除している。利用者はテレビや姿見、家族の写真、位牌など、思い思いの品を置いて、居心地よい部屋にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分かりやすいように居室前に名前を掛けてある。施設内はバリアフリーで安心して生活が送れるようになっている。		